

## 第4部 豊かな個性と文化を育むまちづくり

### 第1章 生涯学習の推進

#### 第1節 生涯学習社会の形成

今日、生活水準の向上、高齢社会の進展などにより、豊かで充実した生活を求める意識が高まっており、従来にもまして国際化、情報化等の急速な社会変化の中で、人々は常に新しい技術や知識などを習得していく必要性を強く感じ、生涯を通じて生きがいや自己実現など、ライフスタイルに応じて学ぶことのできる生涯学習の環境づくりが、年を追うごとに強く求められています。

こうした市民の学習ニーズに対応していくために、家庭、学校、地域等が互いに連携・融合した総合的な生涯学習推進体制の強化を図りながら、情報提供や生涯学習活動の充実に努めました。

#### 1. 学習施設・体制・機能の整備

図書館は、年齢や性別、宗教あるいは社会的信条または貧富の差を問わず、知識やものの考え方を誰にでも提供できる機関です。

平成19年度、市民図書館は、昨今の国際化や情報化社会の中にあって、地域の情報拠点として、市民の知的ニーズに応える図書館づくりを推進するため、新たに駐車場を整備し、増えつつける利用者への対応を行い、図書館の環境整備に務めました。

また、子どもが自主的に楽しく、読書に親しむ環境を整え、地域、家庭、保育園、幼稚園、学校等の機関が互いに連携して、読書活動を推進していくため「伊万里市子どもの読書活動推進計画」に基づき実践活動を行いました。

さらに、6月1日から、黒川町のご理解とご協力をいただきながら、親と子が読書を通して心を通い合わせ、親子・家族の絆を深めることを目的とする、「家読(うちどく)」に取り組みました。

2年目の取り組みとなる学校図書館支援センター推進事業については、小中学校5校の協力を得ながら、学校図書館の活動・運営への支援の在り方について、引き続き調査研究を行いました。

市民図書館の利用状況としては、個人登録者数45,234人、団体登録656(前年比107.7%)、貸出人数106,269人、貸出点数506,693点(前年比103%)となっています。

また、資料貸出以外の図書館利用状況としては、調査相談(レファレンス)が一日当たり64件の18,359件、上映会や講演会等によるホール利用及び展示コーナーの利用者は、102,778人となり、市民図書館が市民の生涯学習の拠点として、また、情報収集の拠りどころとしての利用が定着していることを示しています。

主な支出としては、図書館資料として、新たに本館用蔵書に8,851冊、移動図書館ぶっくん用として2,173冊及び視聴覚資料の購入を行い、この経費として20,000千円、また、施設の維持管理等に32,431千円、市民との協働による自主開催事業に52千円、ぶっくんの運転業務委託費として3,226千円、学校図書館支援センター推進事業に6,830千円を支出しました。

#### 第2節 家族学習の充実

少子化や核家族化等の社会変化に伴い、家族関係の希薄化が危惧される状況の中で、子育てに不安を抱える親が増えていると言われています。

そこで、家庭の果たす役割を見直し、豊かな人間性、基本的な生活習慣や生活態度等を培う場として再認識しつつ、家庭で行うべきしつけや教育のできる家庭づくりのための基礎知識を高める学習機会の提供として、親の自覚を促し、親子のふれあいなどの必要性を理解するため、妊娠期の親を対象

とした子育て準備講座を保健センターで10回開催し、また、乳幼児期子育て講座を6保育園、就学時検診等の機会を活用した子育て講座を16小学校、思春期の子どもを持つ親のための子育て講座を7中学校及び12公民館、明日の親となる高校生を対象とした子育て理解講座を1高等学校で各々開催しました。

また、ボランティア活動や家族参加の体験活動を通じて、地域・家族のきずなづくりを推進するため、12公民館と社会福祉協議会において、「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業に取り組みました。

### 第3節 学校教育の充実

これからの社会を生きる子どもたちは、知識を身に付けるだけでなく、自分で考え、自分で表現する力を身に付け、思いやりの心や倫理観・正義感を持ち、豊かな人間性を育てていくことが必要であり、学校では自然体験や社会体験、問題解決的な学習を重視し、積極的に授業に取り入れていくことが求められています。

こうした新しい時代の要請に応える学校教育を樹立するため、知・徳・体の総合力としての「生きる力」の育成を基軸にして、確かな学力と豊かな心、たくましい身体を持ち、創造的で個性豊かな児童生徒の育成を目指し、教育環境の整備充実等の諸施策を積極的に推進しました。

#### 1. 教育環境の整備

##### (1) 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業

経済的理由により就学困難な児童生徒に対しては、学用品費・給食費・修学旅行費等の援助を行い、その費用として38,964千円を支出しました。

##### (2) 遠距離児童生徒通学費助成事業

小学校の通学距離4km以上、中学校の通学距離6km以上の遠距離通学児童生徒並びに学校統合により遠距離通学となった児童生徒に対して、通学の利便を図るため通学費補助として、4,731千円を支出しました。

##### (3) 学校施設・設備の整備

学校施設の整備は、児童生徒の個性と能力を伸ばす人材育成の重要な場であるとの観点にたち、総合計画に基づき、国見中学校の屋内運動場の改築を行いました。

また、小学校1校の老朽化したプールろ過機の改修等を行ないました。

小・中学校の耐震化を図るため、小学校1校普通教室棟と中学校1校特別教室棟の耐震診断を行いました。

営繕工事については、児童生徒の安全の確保と良好な学習環境を維持するため、緊急性・安全性を優先的に考慮しながら、その整備に努めました。

#### ・学校施設整備状況

(単位：千円)

事業名	学校名	事業費	事業内容
学校建設	国見中学校	233,222	屋内運動場改築
プール整備	二里小学校	5,562	二里小学校プール改修工事
営繕工事	小学校	11,800	校舎等営繕工事
	中学校	8,400	校舎等営繕工事
耐震化事業	小学校	1,505	小学校1校普通教室棟耐震診断
	中学校	2,538	中学校1校特別教室棟耐震診断

#### (4) 学校保健・給食の充実

学校給食は、学校教育の一環として位置付けられており、給食を通じて正しい食習慣の育成や児童・生徒の健康の保持増進、好ましい人間関係を育むものです。

このため、栄養バランスのとれた給食の提供や食事マナーの指導に努めるとともに、衛生管理の徹底を図りながら、安全で魅力ある学校給食の推進に努めました。

学校給食センターPFI事業で維持管理及び施設整備等に要する経費として158,955千円を支出しました。

また、学校給食センターの運営等に要する経費として51,887千円を支出しました。

## 2. 多様な学校教育の推進

### (1) 幼稚園教育の充実

幼児期は、人間形成の基礎を培う重要な時期であり、少子化の時代を迎え、幼児の教育や子育て支援の充実を図るうえで幼稚園の役割はますます大きなものになってきています。

こういったことから、幼児一人一人の発達に応じ、集団生活の中で、主体的な活動としての遊びを通じて総合的な指導を行うとともに、降園後の預かり保育事業を実施して、入園児の共稼ぎ世帯の保護者の子育て支援に努め、その経費として64千円を支出するとともに管理運営費として43,630千円を支出しました。

施設整備については、快適な学習環境整備の観点から新たに黒川幼稚園に空調を設置し、その工事費として1,605千円を支出しました。

また、私立幼稚園に通園する満3歳児から5歳児を対象に、就学前教育の機会均等と保護者の負担軽減を図るため、幼稚園就園奨励費補助金17,649千円を支出したほか、学校法人伊万里幼稚園と伊万里カトリック幼稚園に対し、運営費補助210千円を支出するなど、幼稚園費全体で63,158千円を支出し、幼児教育の充実振興に努めました。

### (2) 特色ある学校創造事業

学校が児童生徒や地域の実状に応じた特色ある学校づくりを推進するため「特色ある学校創造事業」を委託し、3,000千円を支出しました。

### (3) 外国青年招致事業

外国人英語指導助手(ALT)招致事業は、小中学生の英語に対する関心を高め、国際感覚を身につけるためにも大きな成果をあげており、平成19年度は3名の指導助手が英語教育の学力向上と国際理解の指導にあたり、その経費として11,849千円を支出しました。

### (4) CAI研究事業

情報化に対応する教育を推進するために、各小中学校のコンピュータ教育担当によるCAI研究委員会を組織し、指導方法や利用方法等に関する研修を重ねており、その活動充実のための委託料として145千円を支出しました。

### (5) 「オンリーワン」のさが体験活動支援事業

子どもたちの豊かな感性と郷土への理解と愛着を醸成するため、佐賀のよさを生かし、かつ地域の実状に応じた農林水産業や窯業などの地場産業活動を実施する「オンリーワン」のさが体験活動支援事業に4,215千円を支出しました。

### (6) きらきら伊万里っ子育て事業

市内小中学校では、総合的な学習の時間における体験活動の中で「窯業」に取り組む学校が増えてきているが、子どもたちが伊万里焼についての調べ学習を行う際に、大人向けの資料が多かった

ため、児童生徒にとってわかりやすい資料を作成するとともに、ホームページで公開をするにあたりその経費として1,223千円を支出しました。

### 3. 適切な教育指導の推進

#### (1) 学校適応指導教室事業

不登校児童生徒の問題は、教育上重要な課題となっています。このような状況に対応するため、本市においても平成7年度から適応指導教室「せいら」を開設し、不登校児童生徒への支援を行っていますが、平成19年度は、市内全域の児童生徒への対応を充実させるために1教室増設しており、その運営経費として4,086千円を支出しました。

#### (2) スクールアドバイザー事業

平成11年度から、小中学校での不登校の急激な増加による教育相談事業の重要性に鑑み、児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識、経験を有する専門のアドバイザーを配置しており、平成19年度は3名を市内全小学校に配置し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るために要する費用として、4,136千円を支出しました。

#### (3) 学校評議員事業

学校運営に保護者や地域住民の意向を取り入れ、必要に応じて助言及び支援を学校運営に生かし、保護者や地域住民に信頼される学校づくりを目指すために学校評議員制度を設けており、その評議員への報酬として539千円を支出しました。

#### (4) 学力向上対策推進事業

児童生徒の個性と能力に応じた自己実現を図るため、また、基礎基本の徹底を図り、確かな学力の定着を図るために、各学校の学力向上対策委託料として1,457千円を支出しました。

#### (5) 就学指導委員会事業

障害をもった児童生徒がその能力・特性を最大限に伸ばして行くためには、その障害に応じた多様かつ適切な指導の場が確保され、個に応じた指導が保障されなければなりません。

そこで、適正な就学指導を進めるための就学指導委員会の費用として100千円を支出しました。

## 第4節 青少年の健全育成

都市化や核家族化、あるいは少子化といった社会現象を背景として、家庭の教育力の低下や地域社会の連帯感の希薄化などが指摘されるなど、青少年を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。特に、「いじめ・不登校」あるいは非行の低年齢化、さらには薬物乱用なども地方や都市を問わず増加しており、大きな社会問題となっています。

そこで家庭の役割を見直し、家庭で行うべきしつけや教育のできる家庭づくり、あるいは地域でのふれあいや共同生活体験などを通じ社会参加の意欲を養う活動など、家庭教育並びに地域や学校を巻き込んだ啓発や実践活動の取り組みが急務となっています。

また、次代を担う青少年の健全育成を図るため、健全な家庭づくりや社会環境づくりを推進するとともに、「広げよう 子どもの読書の輪」をテーマに社会教育研究大会の開催や青少年の仲間づくり、社会参加の促進を図るための各種事業を関係団体と連携し展開しました。

### 1. 青少年健全育成活動の展開

青少年育成のための、市民運動の展開については、青少年育成市民会議に614千円を支出し、少年の国内研修事業「第21回伊万里サマーキャンプ」や野外での親子のふれあいを深める「LOVE伊

万里21世紀のつどい」など青少年の自然学習体験を通して、自主性や協調性を培う一方、青少年団体の組織強化・活動支援に努めました。

さらに、青少年の非行防止とともに健全育成運動を推進するため、市民総ぐるみの運動を盛り上げるなど環境浄化活動を実施しました。

また、放課後子どもプランの一環として、子どもたちに安全安心な居場所を設け、地域住民と勉強やスポーツ、文化活動などの交流活動を推進するため、山代西小学校をモデル校として「放課後子ども教室」を実施しました。

## 2. 非行防止活動の推進

青少年センターでは、問題行動への対応に取り組むための「青少年対策ネットワーク会議」のさらなる連携強化を図り、定期巡回パトロールを実施するとともに、青少年や家庭からの悩み相談に適切に対処できるための青少年相談室の充実にも努めました。また、環境浄化活動として有害図書・ビデオの自動販売機撤去運動に取り組み、地権者や設置業者への自粛をお願いする一方、増設防止のための広報活動を実施しました。

## 第5節 社会教育の推進

市民が「いつでも、どこでも、だれでも」学べる学習機会や学習情報の提供を図りながら、地区公民館等を中心に市民のニーズに適した学習活動を支援するため、各種教室・講座の開催等の推進に努めました。

急激な社会変化に対応し、豊かで充実した人生を送るための様々な社会的課題の学習機会としての成人学級や女性の地位向上、教養講座としての女性学級、高齢者の生きがいづくり講座としての高齢者学級、学校を卒業した知的障害者の社会的自立等を目指したあおぞら青年学級などを開催しました。

一方、人的諸条件の整備として、社会教育関係職員の資質の向上を図るため、社会教育研究大会等の開催とともに、研修会・研究大会へ積極的に参加し指導体制の確立に努めました。

また、社会教育の場を確保するため、市立公民館の施設の適正な維持管理に努めるとともに、地区住民にとって最も身近な生涯学習の場であり、心のよりどころ、ふれあいの場である自治公民館の活動促進を図るため、自治公民館新改築費補助金7,276千円(5件)を支出し、地域コミュニティ活動の活性化に努めました。

## 第6節 スポーツ・レクリエーションの振興

高齢社会の到来や生活の利便化など社会環境が大きく変化するなか、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが身近にスポーツに親しめる環境づくりが求められており、「スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり」を推進するために、スポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と競技力の向上に努めました。

### 1. 生涯スポーツの振興

インディアカ、カローリング等の各町ニュースポーツ教室や各種大会の開催、町民スポーツ行事の活動支援等を行うとともに、第11回佐賀県さわやかスポーツ・レクリエーション祭を開催するなど、誰もが気軽にスポーツに親しむ機会の提供に取り組み、生涯スポーツの振興に努めました。これらに要する経費として1,422千円を支出しました。

また、市民が気軽に参加できる健康づくりの場とともに、本市の魅力を情報発信するため、「歩きた

くなる街 伊万里ウオーク2007」を開催する経費として600千円を支出しました。

## 2. 競技力の向上と見るスポーツの場づくり

競技スポーツの競技力の向上を図るため、市体育協会や各競技団体等と連携し、中学生野球大会、高校野球大会、市内一周駅伝競走大会等を開催したほか、全日本卓球選手権大会や全国都道府県対抗中学バレーボール大会等、全国・九州レベルの大会に出場した競技スポーツの団体等に対し支援を行うなど、これらに要する経費として4,447千円を支出しました。

また、7月28日から開催した全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会は、万全な運営体制で臨むとともに、「もてなしの心」で来訪者を歓迎するなど、市民一体となって大会を盛り上げ、多くの思い出と感動を与えた大会となりました。この大会を運営した市実行委員会への運営費補助金として6,118千円を支出しました。

## 3. 指導者の養成と指導体制の整備

生涯スポーツの振興を図るため、社会教育主事（スポーツ主事）を配置し、体育指導委員の活動を促進するなど、これら指導体制の確立に要する経費として1,831千円を支出しました。

## 4. スポーツ・レクリエーション施設の整備充実

市民がスポーツに親しめる環境づくりとして国見台体育施設など、既存社会体育施設の適切な維持管理を図るとともに、国見台陸上競技場の第3種公認更新検定や新たに整備された地域運動広場の支援などを行いました。これらに要する経費として28,716千円を支出しました。

## 第7節 人権教育の推進

市民の人権意識の向上のため、「同和問題講演会」や、人権擁護委員協議会等と連携して「人権の花運動」、「いじめなしキャンペーン」、「人権週間街頭キャンペーン」を実施するため1,370千円を支出しました。

また、同和地区周辺地域との相互理解を深め、子どもたちの交流を図るための交流事業及びワイワイキャンプ事業を実施し、その経費として100千円を支出しました。

## 第8節 地域を支える人づくり

### 1. 地域づくり活動機会の充実

次代を創る人材育成として、(財)電源地域振興センターが主催する「次代を創る研修制度」を活用して13人(市民7名、職員6名)を派遣し、地域づくりや地域福祉などを研修し、地域を支える人づくりを実施しました。この経費として、(財)電源地域振興センターから研修旅費の3/4の助成を受け1,159千円を支出しました。

### 2. 地域づくり活動の活性化

豊かな地域社会を築くためには、地域の活力を培い地域を支える人材が不可欠であり、伊万里学の推進をはじめ、地域リーダー育成など人材教育のための各種事業を推進するとともに地域活動の中核的役割を担う社会教育関係団体等の育成に努めました。

このため、地域婦人連絡協議会、市子ども会連合会等の社会教育関係団体に対する補助金として753千円支出しました。

## 第2章 地域文化の振興と交流

### 第1節 市民文化活動の推進

#### 1. 芸術、文化活動の充実

個性豊かで薫り高い地域文化の創造は、これからの人づくりや地域活性化の有効な方法です。

そこで、伊万里が持つ個性豊かな文化が市民のくらしのなかに根つき活かされ、さらに魅力ある地域文化を築く糧となるよう市民活動の拡大に努めてきました。特に、「伊万里を学び、伊万里を語り、伊万里を創る」郷土学としての「伊万里学」を伊万里文化創造の理念に据え、市民主役の文化活動の展開に努めるとともに、地域に根ざした芸術文化や生活文化の振興に努めました。

また、自らが学び習得したものを人前に発表する機会を提供することは、市民の学習意欲や文化意識の高揚を図るうえで極めて重要であることから、恒例の第27回伊万里市美術展を開催しましたが、年を追う毎に多彩な内容と、レベルの高い作品が数多く出品され、優れた作品の発表・鑑賞の機会として好評を得たところです。

さらに、市民自らの活動の成果の発表の場である「伊万里市文化祭」等を支援しながら文化活動の活性化を図るため、文化団体等の育成補助を行い、これらに要する費用672千円を支出しました。

伊万里・鍋島ギャラリーでは、世界に誇る鍋島の美に接し、その美しさを堪能してもらうとともに、郷土の歴史、文化に対する理解を深めるため、館所蔵の優品を紹介する第12回常設企画展として平成19年3月から8月まで「伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 鍋島・古伊万里」展3、第13回常設企画展として平成19年8月から平成20年1月までは「市立伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 鍋島・古伊万里優品」展、引き続き第14回常設企画展として平成20年2月から7月までは「市立伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 第2回 鍋島・古伊万里優品」展を開催しました。

これらの期間中に、本市所蔵の鍋島・古伊万里、延べ118件174点を展示公開し、平成19年度は1,898人の入館者がありました。伊万里・鍋島ギャラリーの管理運営に要する経費として3,754千円を支出しました。

市民の自主的な文化活動を支援するため、市民が主体のまちづくり・文化活動として実施された、第9回伊万里・黒澤映画祭に対し開催負担金2,000千円を支出し、市内外に対し伊万里をアピールしました。

また、黒澤明記念館サテライトスタジオの維持管理に対して支援を行い、映画文化の情報を市内外に発信し、市民文化の向上を図りました。この経費として7,131千円を支出しました。

一方、市民の文化活動の拠点である市民センター並びに市民会館は、ともに多くの市民の方々にご利用いただいております。市民センターについては、空調機中央監視装置制御盤の備品購入費として4,900千円、正面玄関の自動ドアのセンサー部が故障したため、その改修費用として494千円を支出し、快適で、安全な環境づくりに努めました。また、施設運營業務委託料として18,531千円を、機械設備等の点検整備業務委託料として12,506千円を支出しました。

市民会館については、大ホール冷暖房設備、会議棟ガス配管取替、その他設備改修費用として、1,004千円、駐車場の区画線補修工事に要する経費として393千円を支出し、また、施設運營業務や機械設備等の業務委託料として8,164千円を支出しました。

さらに、市民センター自主事業として伊万里秋祭りイベント「堀内 孝雄コンサートツアー2007～08」及び子ども文化ふれあい事業「忍たま乱太郎&キッズコンサート」、さわやか健康づくり大学の公開講座「笑って笑って健康を」と題して「林家 正蔵独演会」の3公演を開催しました。

カルチャー入門講座としては、「親子でお菓子づくり教室」や「茶道教室」、「男の料理教室」の3講座を開講し、市民文化の向上に努め、これら文化事業の費用として11,618千円を支出しました。

平成16年度～18年度に実施した市民文化フォーラムや文化振興懇話会などの成果を踏まえ、伊万里にふさわしい博物館・美術館の基本構想を策定するため、策定委員会を設置しました。19年度は専門家によるワーキング会議を延べ2回、策定委員会を延2回開催し、基本理念などの基本的な事項について協議を行いました。これらに要した経費として82千円を支出しました。

## 2. 芸術、文化の創出

平成11年7月に中心市街地にオープンした「黒澤明記念館サテライトスタジオ」は、平成19年度末までの入館者累計が38万人を超え、本市の観光・文化などの情報発信拠点として定着しているところです。

本記念館の建設については、今日の厳しい経済情勢の中、建設主体である黒澤明文化振興財団において建設構想の見直しが行われ、平成15年11月に、従前の観光施設の要素に加え、芸術文化や教育関連事業が中心となる「映画芸術の複合文化施設」へと計画の方針転換がなされました。

同財団においては、平成19年度は、新構想に沿った本記念館の建設実現に向けた活動として第3回目を迎えた「黒澤明記念ショートフィルム・コンペティション」の開催事業に取り組み、一定の成果を上げられたところです。さらに、その成果を踏まえ、建設実現に向けた具体的な推進計画、資金計画等の策定に鋭意取り組まれたところです。

このような中、市としては本記念館の早期建設に向け、財団との協議を行うとともに、財団活動を支援するなど、これらに要した経費として82千円を支出しました。

古陶磁美術館として世界的にも高い評価の「財団法人戸栗美術館」(東京都渋谷区)が大川内山において計画されている新美術館建設については、平成18年7月に買収を完了された山側計画地が、地質調査等の結果、地すべりの危険性があることが判明したため、安全性を最優先させ検討した結果、平地が少ない地形条件において、新たに伊万里・有田焼伝統産業会館用地を建設地とする「計画変更案」をとりまとめましたが、地元・窯元組合等との調整がつかず計画変更案は白紙に戻りました。

その後、打開策を見出すことができないか、戸栗美術館と協議を重ねてまいりましたが、明確な方向性を見出せない状況の中、10月には、戸栗亨理事長が亡くなられるという事態に直面し、検討作業も中断せざるを得なくなりました。

新理事長となられた長男と今後の方針について協議した結果、新美術館の建設に対する考え方に変わりがなかったことが確認でき、3月には戸栗美術館において購入された用地の川沿いに、シダレ桜の植栽を行っていただきました。

これら美術館との協議に要する経費として、1,721千円を支出しました。

## 第2節 伊万里学の推進

伊万里の歴史・文化・風土・人物・産業などに学び、それらを素材にして考え、まちづくりにつなげる学習と実践活動を伊万里学の基本理念として、新しい文化が息づく伊万里市づくりに取り組んでいます。

この活動をさらに普及拡大するため、新しい発想を加えながら様々な事業の展開に積極的に取り組み「伊万里学」の確立に努めて参りました。殊に、「伊万里学」の普及活動の一つとして、親しまれてまいりました「市民音楽祭」を12月に開催し、練習をとおしての世代間交流やステージから流れる美しい調べに、歌う人と聴衆が一体となり、心豊かな機会とすることができました。

また、地域の特性を生かした伊万里学を推進するため、市内の13地区と生涯学習センターに「伊万里塾」を開設し、その経費として700千円支出しました。



### 第3節 文化財の保護と継承

地域の自然や風土の中で生まれ、継承されてきた有形、無形、民俗、記念物などの文化遺産は、市民の生活に誇りと潤いをもたらす源泉であり、これからの新たな地域創造の有効な素材となるものです。

歴史民俗資料館では、伊万里市博物館・美術館づくりをすすめる会との協働開催事業として「第8回市民所蔵品展」を、10月中に25日間開催しました。今回は「日本画・水墨画・浮世絵・版画」をテーマとして募集したところ26名の市民の方から、日本画、水墨画の屏風や掛け軸など、26件31点の出品があり、期間中に307名の入館者があり、市民の歴史や文化など、ふるさとに対する関心を高める事業として効果がありました。歴史民俗資料館の平成19年度の全入館者は1,439名を数えました。併せて資料館のボランティアスタッフの募集を行い、4名の申込者があり、20年度から資料整理や解説等に加わって頂く計画ですすめています。歴史民俗資料館の管理運営に要する経費として2,796千円を支出しました。

陶器商家資料館では、建物（市重要文化財 旧犬塚家住宅）の公開と併せて「古伊万里」などの古陶磁器や、商家に関する文書や調度品などの展示を行いました。陶器商家資料館の平成19年度中の全入館者は4,604名を数えました。陶器商家資料館の管理運営に要する経費として2,145千円を支出しました。

また、大川内山の秋の窯元市に協賛して伝統産業会館においても、本市が所蔵する古陶磁器を広く一般に展示公開し、伊万里の歴史的・文化的特徴の理解を深めるものとして成果がありました。

埋蔵文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを正しく理解する上で欠くことのできない国民共有の貴重な歴史的財産です。このため開発事業との調整を図り埋蔵文化財の保護を円滑に進めるために、225件の開発申請等について調整を行い、さらに14件の確認調査を実施する経費として国等の補助事業を活用して1,003千円を支出しました。

また、平成10年度に埋蔵文化財の保護と開発の調整を図るため、黒川松島線バイパス工事に伴う宮ノ前北遺跡D地点の発掘調査を行いました。平成17年度からは県からの委託を受けて報告書作成のための整理作業を実施しており、19年度は原稿執筆、編集を実施して報告書を刊行し、また遺物収納作業を実施しました。報告書により当遺跡の発掘調査成果を詳細に明示することができ、伊万里の古代史を知る貴重な資料として利活用できるようになりました。これらに要した経費として351千円を支出しました。

カプトガニ保護活動の理解者を拡充し、今後の保護活動を充実させるため、カプトガニの生体展示を平成18年度から行っております。19年度は4月から7月12日まで、市役所市民ロビーで飼育展示し、カプトガニの産卵時期に合わせた7月13日から8月26日までは多々良海岸隣接の民間倉庫で、その後は再び市役所市民ロビーで飼育展示を行いました。これらに要した経費として323千円を支出しました。

伊万里市内には約80ヶ所の窯跡が所在していますが、いくつかの窯跡は何度も盗掘被害をうけています。この貴重な文化財を保護するため窯跡保存対策業務として、警告看板の製作と設置、盗掘跡の埋め戻しなどを実施し、これらに要した経費として40千円を支出しました。

### 第4節 市史の編さんと活用

市史編さん事業は、平成18年度末までに本編12巻、副読本1冊の発刊し完了しましたので、販売に力を注ぎました。

その結果、985冊の販売冊数と、3,594千円の販売額をあげました。

## 第5節 国際交流の展開

### 1. 異文化との交流の推進

#### (1) 国際理解の増進・国際感覚の醸成

地方の国際化が進むなか、市民が他の国の文化を理解し、国際感覚を身につけるよう、外国語教室の開催や交流事業などの活動を展開している伊万里市国際交流協会を支援するため、180千円を支出しました。

#### (2) 人材・文化・スポーツ・経済交流の促進

本市の国際交流は、伊万里湾を活用した国際交易基地を目指すなかで、特に本市と至近距離にあり、港という共通性を持つ中国大連市との交流事業を推進しています。

まず、人材交流事業については、大連市国際人材交流協会から13人目となる公務研修生を受入れ、その費用として公務研修生受入事業に1,569千円を支出しました。

### 2. 受け入れ態勢の整備

外国人の受け入れ態勢を強化するための国際交流専門員1名を配置し、その費用として、2,159千円を支出しました。

また、大連市で開催されました「2007中国大連・日本地方都市トップフォーラム」に参加するとともに、両市の友好交流20周年を記念して「友好交流都市」の締結を行いました。

11月には、76名からなる市民訪問団を大連市に派遣し、太極拳、書道、図書館ボランティア活動等の市民レベルの交流を行いました。それらの費用として4,072千円を支出しました。